～研修医日記～

Vol.7　『OTOKO はツラいよ』　―無礼講専修医編―

　当院外科では、日々の診療に全身全霊で取り組んでいるが、業務後の交流も欠かしていない。月に 1 回程度、近隣の運動公園で“熱血テニス道場”と銘打った部活動を実施しているのである。外科医と研修医を中心とし“心地よい血尿（ミオグロビン尿）を流そう！”という厳しい目標のもとで立ち上がった部活動であり、他科の先生やコメディカルの方々も参加していただいている。
　当初は目標通り男子部員のみの硬派で厳格でむさ苦しい部活であったが、いつしか女子部員も増え始め、現在では黄色い声も飛び交う和やかな雰囲気でテニスを楽しむ部活となり、当初の目標であった“血尿”が“鼻血”に変わりつつあるのが気がかりではある・・・（しかしこういう想定外の雰囲気は望外の喜びである・・・）

無礼講専修医:「いや～～やっぱり女子部員が増えて目移りしてしまうなぁ～～❤
おっ、今日は○○科の美人先生が来られているぞ～～！テンション上がるなぁ～～！！テニスでいっぱい“好プレー”連発していいとこ見せたろ～～っと！そんで飲み会のあとは二人きりで“チンプレー”の連発～～ってかぁ～～❤　・・・うしし」

テニスを2時間みっちり楽しんだ後・・・

部長:「みんなお疲れさ～ん。この後、居酒屋に飲みに行こかぁ～～！」
全員:「は～～い！！」

さて、ここから硬派な部活のコンセプトから完全に逸脱したオトコどもの悲喜こもごもの駆け引きが始まる・・・

無礼講専修医:「美人先生、今日はお酒飲むんですか？」
美人先生:「飲みたいんだけどね、電車で来てるから終電までには帰らないとね。」
無礼講専修医:「確か、帰る方向同じでしたよね？　僕は今日飲まないんで、よかったら帰り送って行きましょうか？」
美人先生:「いいの～？　ありがとう～！」

するとそこに一人の男が割って入って来て・・・

チャラ男研修医:「あっ、美人先生、僕も帰り道先生と同じなんで送りますよ！家も近いし。」
無礼講専修医:「（何やこいつ、邪魔して来たな～～！！💢💢）」

居酒屋での飲み会は終始盛り上がり、無事お開きとなった・・・

部長:「それではみなさん、送りオオカミとかには気をつけて帰ってね～～！！」
全員:「ありがとうございましたぁ～～！！」

いよいよここからオトコどもの駆け引きは佳境に入る・・・

無礼講専修医:「美人先生、終電なくなってしまいましたねえ～。(シメシメ・・・)では僕が送りましょうか❤ 」
美人先生:「それがねえ～、チャラ男くんが送ってくれるって。他の研修医たちも送って行くんだって～。ほんといい子だよね～～」
無礼講専修医:「あ、でも・・・💦」
チャラ男研修医:「先生、僕が送るんで大丈夫ですよ！先生、遠回りになってしまうでしょ？」
さわやか研修医:「僕たちの方が家が近いみたいですし、気になさらないでくださいね～。」
外面研修医:「お疲れ様でした～～！！(この先輩、空気読んでほしいなぁ～～💧💧・・・)」

無礼講専修医:「あ、いや、その、僕が送り届けるから・・・💦 💦」

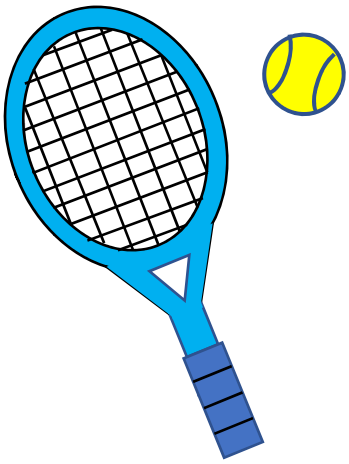
そのつぶやきも虚しく、美人先生を乗せた車は無情にも“ブイーーーン”と走り去ってしまった・・・

するとその一部始終を見ていた部長がニヤニヤしながら近づいて来て一言・・・

部長:「そんなに送り届けたいんやったら、悪いけどボクを家まで送ってくれる？？」

美人先生が座るはずだった助手席に部長が座っている現実を受け止められないまま、僕は自宅と逆方向にある部長の家まで送り届けることとなった・・・
雨も降っていないのにフロントガラスに映る夜景がやたらにじんでいた・・・💧
この悔しさは次回の部活で新たなターゲットを見つけて晴らしてくれよう・・・

【変集者後記】
飲み会の後のあるあるシーンである。これを目的に血尿、いや鼻血を流して部活に勤しんでいる部員も少なからずいるのであろう。
しかしオトコっていうのはいつの時代も、下心を持つと単純(本能のまま)で哀れなものである。それでも同じことを繰り返してしまうのがオトコであり、その都度ツラいのである。この専修医には次回以降も部活動を頑張ってもらって、是非続編を作ってもらいたいものでる・・・・・・・・・というか、ほっておいても自然に出来そうである・・・・・・
みなさま、乞うご期待！



ブイ――――ン！！